

海防奉策

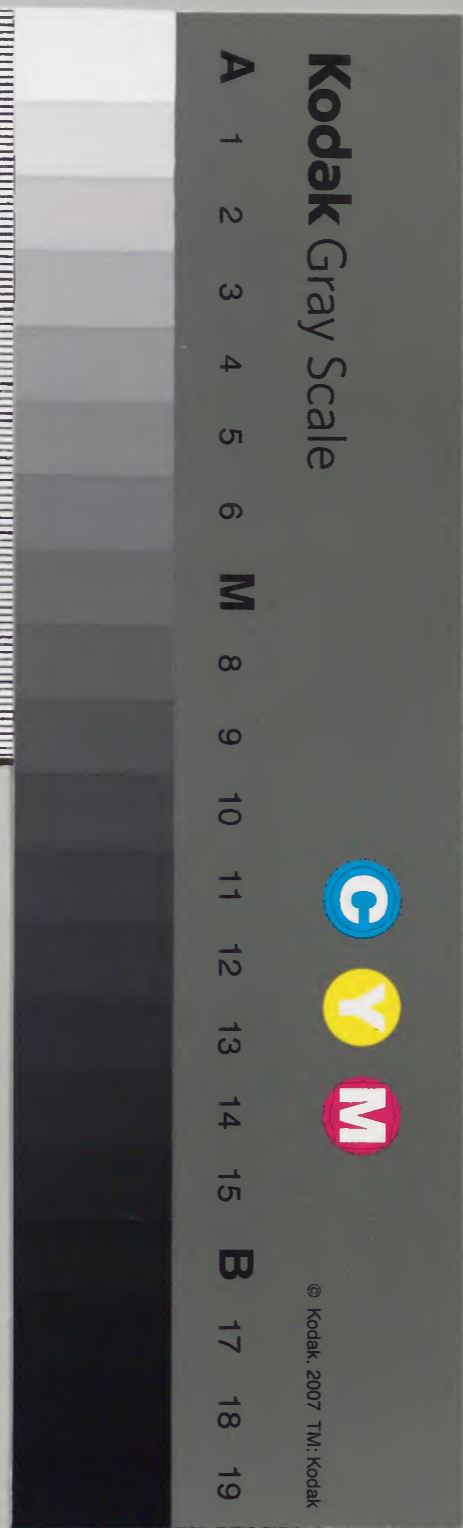
嘉永癸丑
鈴木大
共八冊

和書門
三六〇五一
二二四
三四
三八冊
函架類

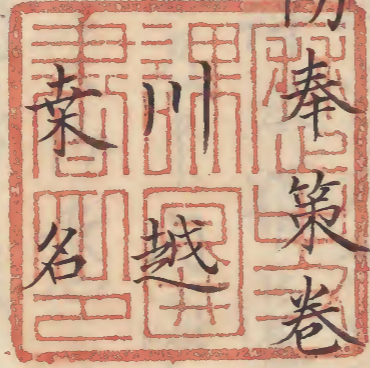


内閣文庫	
番號	和 36051
冊數	38 (35)
函號	150 155

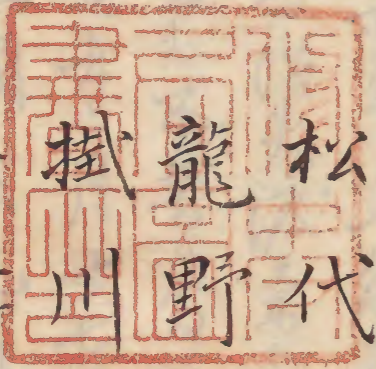
史五八



海防奉策卷



佐倉



唐津



木下

内藤 新庄 加納 久貝



今度浦賀表渡来之亚墨利加船差上以書翰之
和解寫武册以渡右書翰之趣意不容易事付
御許容難以進之句論之序右付之に法備場
之不及中内海之由向追之格別の手厚之に整不
成之に沙安心之難と進之儀此度之儀之實小
涉國家之法一大事之旨重之渡来之節如何格之
亦亦之と之趣哉右書翰之趣得之趣覽付之一新之利
害得失渡来之不便も深思之趣仕候今忌諱之編之事
之不便も苦之旨御遠策無之見込之趣十之旨上
之旨月廿七日法封書之以沙進之趣其畏之
皇國之法元之付之大切之極之儀中之思之趣行届候
之旨無之程恐入之候之に沙之旨去之事之旨為分忘

御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難
御許容難

津之觸るも不若る言 聊述兼無在見込之趣十分
中上之儀之儀事之儀之儀執持之 上通之儀之儀止
我之儀之儀却之不忠之玉忍入甘存之儀不若届而却
未之儀之儀之儀心付之儀才別帳之儀中上之儀
中之儀之儀不奉顧也儀也儀之儀之儀委細之儀
沙主意之儀之儀之趣 中上之儀之儀之儀成中之儀
以儀仕儀之儀存以上

八月

北亞墨利加合衆國之結和親交易及於南地一地之擇
同州船之入港沙免之儀同州懸帆之船颶風之逢 沙玉地

之儀着之儀節 之儀儀郵之儀之儀之儀之儀之儀之儀

沙國初以來漢土和蘭二國之外 沙免之儀之儀由之儀之儀

之儀委教不若儀之儀之儀是也外夷之儀之儀之儀之儀

沙國之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

度魯西亞國之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

長崎表之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

沙國之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

合衆國之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

皇國之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

神國之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

皇國之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

存之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

存之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀之儀

大城海岸相豆腐總要樞之地實付の法備向の志甚
由子海兵と守存の此度差上の書翰之趣文

御國威を不思争闘之意を差合存存の法是近

西振合を以法防の遊のるを守畏た不の守存の當年

八江戸海咽喉相結の要地を越本牧迄測量と七

侍旨此上を品川沖の法濱沖芝浦迄近急入可申

我難中何分

大城の海岸間近の法場を捕法返答の趣の勢乱妨

心を生るるを由大切至極の守存の東春源来りし

故進の海者夫の早急の法重くの法備の中事

公邊の法力も由法河届の遊習法死の守存の法善向

此場合品川迄の深川迄の海岸の家並不残の法備

作付其海岸の士居砲臺の法構の法大砲數百挺急速

而構の法備配の仰付法備の法成の法事の法如の法

守存の江戸海岸の士居砲臺の如何の法勢相

固の法大砲の法如の法戦争の法始の法徳の法亡命の法

多く敵の物更の法成

御國辱の法如の法事の法守存の法何の法也

不速の士居法築の法大砲の法手配肝要の法守存の法御國辱

の法多少の法如の法不の法候の法西極の法上の法程の法喜の法度の法此

度の法兵船萬物交易の法形の法勿論の法守存の法度の法先

の法守をの法合物石炭の法候の法守見の法石炭の法候の法九州

産の法中事の法及法以の法守存の法定の法全國の法守存の法此

法政の法英人の法法國地の法漂流人の法南人の法守存

多く人数を奪益し失ひは進言海に名傳し其時依りて
先正兵を以船戦し倭ハ其處止上陸不能成格史に海岸は
向は此場大ヶ處重し西國兵 何れも致し其處に在り
其船存し江戶海へ入

大城の間進し海岸近し測量し其地も難事なり其地は倭兵
沖心外千萬し倭兵登仕能れ其地も残念なり其地は
此節に一時其地を其處重し其地は其地は其地は其地は
寛大に其地見流し其地は其地は其地は其地は其地は

一是近江戸海咽喉なり其地は其地は其地は其地は其地は
向地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は
らり其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は
其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は
後も其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は

以中央を其地通し其地は其地は其地は其地は其地は其地は
其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は
其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は
其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は
其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は
其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は
其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は
其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は
其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は
其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は其地は

日本地方の通商交易の海に拙業を致すに事ありて交易の量
は多し一旦は行客永世大患を基とし中一日の安心を
得ざるありて是れ且つ國法を以て交易の所を以て
以て定むる兵船を以て兩國の國境及びその南海諸島
に侵奪の儀ありて得る兵船彼を闖く儀は度外
所謂有名に師を直に我に若くは他日恢復の功も易
得る然れども一旦は行客の上は他日兵力を以てその度
曲在于我に師を命ざる必死の期ありて是れ且つ戦
死生社稷の存亡に係りて事言ふに容易は勿論なり
是れ六法下知し以て至何程なりと人事は其は甚し
天命は然る志也斯は時運なりは其は甚し是れ
津厄運なりは其は一師の所を以て外事の便は彼書中
却制の

言を合表し以て國和年々を言押すは其の素の兵端我
求むるに及ばざる事ありて是れ其の素の兵端我
以て向ふは其の素の先年魯西亞は其の通商交易
の素の素の素の素の素の素の素の素の素の素の素
魯西亞は他國の對しては其の素の素の素の素の素
ありて其の素の素の素の素の素の素の素の素の素
成るる事ありて其の素の素の素の素の素の素の素
事ありて其の素の素の素の素の素の素の素の素の素
此事は其の素の素の素の素の素の素の素の素の素
以て其の素の素の素の素の素の素の素の素の素の素
夷情を拘りて其の素の素の素の素の素の素の素の素
用は其の素の素の素の素の素の素の素の素の素の素

右の書に云く愚見は是の如くは宜しき計可なり於て又
今夜浦の表なる書箱清に以候全一時に控道に趣余儀も
無事なり去長崎表に外國の門文に市場所富津に江戸
より一に所要の便天下に同志得在事に今夜浦
矣と國書の清に富津に内海に余入測量自由に致しはる哉
此の接無く是がた天下に物惑を生し且に海外に
諸藩におもむく事も如何なる哉過去に事とてを得るも
且に思量を以加る後流不致に在る松平仰承の事
に在る以上

七月十三日

松平越中守 献

彼に堅牢の軍艦有る我用船も短小軟弱是彼に不及
之に彼に大砲精の銃を器械不整是不及之に二彼兵士
強壯戰場を應じ我を治平習ひ自分武徳薄く是彼に
不及之に三右三つに務弄せし者先交易の閉局拾年にお立
弥國益に不成りしに生るは所也と武徳後重にお立申
度又在國益におゆりしに生る交易致るも可然哉

堀田備中守 正篤

亡祖父信濃守外寇之防禦一機身多之終身苦心仕務日向
我元來不如此之守之得凡火器制作亦不約屬之了御心是
在在對一法府内近海之黃家之守之守之時表有合人好甚
以無物之口在守之守之守之守之守之守之守之守之守之
中聞之了の口今將再底之強之口格之守之守之守之守之守之
液來刻浦賀之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之
牧邊之了最初船越居之守之守之守之守之守之守之守之守之
之場所之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之
法時之了守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之
中場之了守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之
火薬之了守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之
少之了浦賀之了守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之

亡祖父信濃守外寇之防禦一機身多之終身苦心仕務日向
我元來不如此之守之得凡火器制作亦不約屬之了御心是
在在對一法府内近海之黃家之守之守之守之守之守之守之守之
以無物之口在守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之
中聞之了の口今將再底之強之口格之守之守之守之守之守之
液來刻浦賀之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之
牧邊之了最初船越居之守之守之守之守之守之守之守之守之
之場所之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之
法時之了守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之
中場之了守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之
火薬之了守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之
少之了浦賀之了守之守之守之守之守之守之守之守之守之守之

近色近出張之信札之清甚も其有少中抄有在在是此
度既之本牧色遠近も理不之念入に依りて得る自然品川
内海之も念入る子に存るに能く其有るに依りて殿止也其御
ありて之も其有るに依りて松平越前守人教之に其有るに蒙
作ら由に承知信之清甚も其有るに依りて越前守人教之に蒙
以外に其有るに依りて其有るに依りて其有るに依りて其有るに依りて
蒙 仰第一重五知内海に其有るに依りて其有るに依りて其有るに依りて
限防備信亡祖又生前之風志之も其有るに依りて其有るに依りて其有るに依りて
其有るに依りて其有るに依りて其有るに依りて其有るに依りて其有るに依りて

六月九日

真田信濃守 幸教

程以有令之火忌片身之品我無所難之得也 拾三費七百目
五費目玉或費目玉或費四百目玉一費或百目玉等四費目身
場所抑家之火忌可被危し而難免也之無運轉掛
引之業不却令之為之馴練仕立後我無益之其如亡祖父
生涯之内折角苦心仕立候も遺恨至極之候も何卒此言
慥來場不之新象 仰度之令能自記仕立候
此後何之然令至之其如以上

頃近も貴國交易の世に於ては、倭の合衆國建ち立政後
一百年の間に、不満の事、不逞の事、可多し。同交易の事、
之れを以て、日本當時不逞、不逞、自由、交易、移、專
價、素、節、儉、を、以、修、ふ、は、時、勢、に、不、存、自、國、因、格、心、得、を
以、互、國、益、者、を、存、存、及、所、望、者、彼、不、約、局、に、日、本、に、活
時、勢、具、に、以、示、新、規、概、物、世、に、流、布、以、多、し、物、奢、侈
之、増、し、所、に、お、し、華、多、し、亦、政、道、に、不、得、止、事、以、
之、を、以、て、倭、に、天、德、を、輸、す。

五年或十年を以て、元準、一、以、其、利害、を、察
一、若果、一、貴國、利、あり、少、お、わ、く、一、舊、律、を、回、後
志、可、也

上、思、ふ、に、倭、に、日本、に、試、せ、不、及、益、を、無、し、喜、計、に、
明白、多、し、居、る、者、違、背、不、致、其、事、追、て、雙方、利益、を、
彼、國、差、支、に、故、に、以、強、も、お、形、に、趣、意、を、お、し、以、て、金、銀、銅、鉄、
堅、を、禁、不、穀、布、帛、糖、茶、豊、凶、に、應、じ、年、に、増、減、設、一、
玩、之、に、以、て、積、規、定、い、多、し、一、陳、文、を、強、之、に、
一、三、年、限、交、易、
一、許、容、を、お、し、
一、御、國、體、を、不、拘、
一、御、仁、惠、を、以、て、
一、難、方、無、事、に、以、得、を、彼、理、陳、書、に、中

立定和約則兩國免起衅端

す、
す、
す、

如若不和來年大船兵船必要馳來
と、者、趣、を、お、し、
一、遠、東、之、
一、雙、方、之、國、益、を、謀、
一、以、心、底、を、
一、亦、お、し、
一、日、本、昇、平、之、士、風、を、見、
一、掠、或、威、を、
一、一、遂、望、を、
一、形、勢、を、
一、顯、居、る、者、
一、何、事、も、
一、或、威、を、
一、恐、怖、

政しむるに由り、万国の侮を受、即國體に拘り且魯
西亞、暎咭喇、嘶等、進に同格に儀を仕て、下り、當時長安交
易に上通に國數お給及繁昌なり、政柄に榮色に無に、
奇國賊も一及衰耗に上、彼理陳書中

都知人倫、爺蘓之道

と徳公若白國の儀を、無に、好に爺蘓、言信、意と言外、
有に、因續

本國律例各官、不管本民之教、何況能乱別國之
政乎

と徳公、趣に、爺蘓弘道と、主言、波身、と、有に、言教
以、得に、無に、想に、者多、爺蘓、徒に、有に、旁に、前書、趣
と、以、交易、涉、洋、容、無に、儀に、任、儀に、外に、無に、言、大、邦、之、軍

艦も、每、津、頭、着

沖武威を、示

神國の光輝を、下、為、挑、涉、時、勢、と、下、思、奉、察、に、江戸、近海、
一、奉、奇、魯、西、亞、暎、咭、喇、嘶、等、進、傳、集、恐、怖、い、る、一、い、に、江戸、
近海、色、に、無に、日本、國、中、外、國、の、憂、を、免、に、儀、と、お、成、形、一、言、
際、と、有に、及に、於、國、の、安、防、に、御、無に、儀、可、不、言、其、實、に、
日本、開、闢、以、來、未、嘗、有に、一、大、事、と、有に、た、と、い、大、邦、の、
軍、艦、波、身、に、在、於、波、上、陸、と、十、分、の、働、お、給、り、均、に、炮、船、を、彼、
所、長、我、所、短、不、に、被、亦、に、儀、能、心、得、に、趣、に、言、報、に、上、陸、
不、波、浦、架、造、に、江戸、内、海、四、五、里、の、間、漂、船、波、一、時、大、島、
八、丈、号、の、食、糧、薪、水、等、奪、取、可、し、是、等、一、に、難、儀、に、言、
乍、去、彼、進、退、自、在、に、得、我、可、奈、移、足、趣、に、言、軍、艦、を、城、
郭、に、見、場、不、定、に、関、船、小、早、船、を、歩、行、立、て、兵、士、と、見、城、身、

自後攻一のり彼二之益有之我一之損有之得も
古々名將勇士兵糧お揃一和後一の砲城を責落し
以り生版を不移りては四五里の間二十箇所廿五所と
中におは是又島を難儀有之必定五ヶ所も七八ヶ所
一時責無敵船同古お救の隙も無之病に不仕を多し敵船
難を對一ヶ所毎二十重廿重西國防備しとのハ勿備船
進退を拘るとの速快物に打たくめ火矢炮烙に自を死
為懐拂の外に砲術無之第一大砲を打拂は共直に船
四方を隙不責ありを成功に不致敵船一艘を一重に圍ら
る蘭船小早船百艘も其れを難計十重西國の得る千艘六
七ヶ所一時責あり六七ヶ所其中大砲を打拂は其れ難計
三者に度毎必定懐拂は難定人敵多船に換至願友有
旁に有来の上り又船澤山に南南意に 仰付沙羅本ハ勿備
陪臣之と颯風怒浪別を退魚計仕等公作に 仰付改申
存
但老船を致し俄表國船不若堅固の軍艦船艘を用意
出来兵士も船軍調練い多し初は五角におは 守屋屋を
種々手版も有之は即今おはる候中上り大軍艦
涉造は来り其の口官令而しり去過年何地に回れ
民仕懸り其も無之官法御内用意に 仰付改申要に
存
敵船兵糧薪水等在調成有之人數も一及減少あり其
海上自在の國に敵船を償了りる有者あり候に拘りて日本
殺十全無之有 都省略信

一 海邊人家放火致一有難棄一上陸及乱妨の及有
皆沙府内河野船中一兩山之堅固沙守獲無
之安心難成之内も上野少一自遠之立場所扱も宜
惣沙捕も備る居るは得る増上寺の方公甚後百有
沙手入無之防禦六之教有之官家も手至無事未
有也

一 淡路越ハ河備も立指官急後沙用立一愛宕山より此
沙見切らる有る於回不敵船之動靜を見定供手
通達人數之差引供之動き有之官家我ら有也

一 海色或三所或四五所之間一各明地致一戦争場
不定の進退撤引不自由有之我ら有也
但二百餘年前日本同古之戦法と以て制は精密
夷賊對一以る指利等無事有騎之士は足輕
成土後能多分有持手取大物之車馬も仕懸持也
烈を放蕩有致は責め付宜用之練兵は 作手有也

一 船之御用意も十有之出島も兵士之進退懸引も終半
年之訓練も十有之難事也上流者之通彼も益多
多之我ら控色も難儀之戦も半年又も十月を
得る成功も見込も甚危也戦争年と越は後

一 江戸近海今戦始りて廻船之通路絶官は料も
勿論諸家も成丈手操も一采薪も十有之江戸表は
取寄積貯川船並牛馬運送も所も若運送も高下も拘
船牛馬之數も本館運送も致沙府内所人凡も其

至るに廻船通路絶戦年之地方亦如賣米通有之
買取之旨屋敷大狩出多者之指手以才無及之のた七
唯今之致覚悟田舎に立退渡せ之致分は 仰觸沙府内
町人数兼之無多過之式も之存者以度半分九三之一
お城の旨進言 仰住櫻、亦お城を為板永久之良法も亦立
下り成守を於諸家婦人へ勿論男子も老幼分て在
不意知り下り差無奴僕も成丈お城劔鎗弓矢を取戦
お成りとの善戦具持業色之致し御府内へ人数を城兵糧
大獲い多し事し合戦二三年、及公たる支せしと慥尔
治定致し善及第一幕宮年一五年七兵糧五續るも
武年月無免来程し 仰らる五角一軍船も無し未熟し
兵士を心一十年に内必成功を免候し合戦三取撤し長儀
甚危二五年目此方より交易和親を求む候らる 耻辱を
重く色ありん意外に大憂も難斗は皆此境を以沙火
切し以儀と身取ら得た此等らる亦書し通治定不致
と致し桑有し多年亜墨利加和退帆し後沙屋場を始
浦噴表前寄沙儀向智し以子等者しと之来春交
易 沙許容に 仰渡は不審を生し 容易に致兼
引買取も以桑是あり廉如何候し以摸取らる事
分寄以治定し儀難し上之旨可然以取捨し以以上

癸丑
八月 廿五到朱

脇坂淡路守

阿部伊勢守殿

牧野備前守殿
松平和泉守殿
松平伊賀守殿
久世大和守殿

異國船渡来の儀を申度事、此度は受託中此後浦安
表の来船はアメリカ之儀不容易越え申すに候、此所迄之程合
寄りのを國家に決一大小之及難計に存候、依りて領内
而して海客の度々も候、此度は蘭人中に古書面
此度アメリカの書翰に寄る内院に受託し、不容易候
寄る者書翰に趣き、一交易の外、亦、お取付候、一、
此所より候、儀、雖、進、も、不、好、儀、也、申、す、無、事、存、候、旨、
勅、命、付、り、申、す、も、不、好、事、に、候、先、南、時、に、申、候、以、り、相、一、
此、取、上、無、事、存、候、旨、申、候、為、不、可、然、存、候、旨、趣、意、に、
意、付、り、候、文、政、八、年、に、作、出、通、し、所、有、合、人、數、に、不
及、者、無、事、拂、り、候、儀、に、候、旨、申、候、旨、に、候、旨、に、
此、の、旨、を、海、に、傳、え、申、候、旨、申、候、旨、に、候、旨、に、

此進、おぬ英國も通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
は、進、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
難、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
改、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
以下略
大云

希、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
お、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
之、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
有、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
長、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
得、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
由、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
規、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
氣、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
易、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
下、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
交、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
お、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
上、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
法、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
例、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、

此規、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
氣、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
易、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
下、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
交、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
お、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
上、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
法、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、
例、おぬ、通進、おぬ、承知仕る、只今、文政、

此後故亞墨利加之上書之趣
位終之存身十部之中存身江
變不容易少儀私風情言何
指天御差固次牙勵忠勤以
御積尸之上上

七月廿九日

小笠原佐渡守

長國謹上

九月廿五日

六國新刊

先般浦賀表... 亞墨利加... 著作... 國事... 書翰... 仰出... 無... 一... 皇國... 東照神君... 日各自... 皇國... 東洋中... 一國... 土地膏腴... 有... 五穀... 始... 品

先般浦賀表... 亞墨利加... 著作... 國事... 書翰... 仰出... 無... 一... 皇國... 東照神君... 日各自... 皇國... 東洋中... 一國... 土地膏腴... 有... 五穀... 始... 品

生産豐饒仕夜倉位も十分足人物も自ら朴実志也と此太平
 之化を固く人君所成徳の膏を爰に仰るるは世界万国の秀
 格別之國物也是は外國通商格無くとも金銀の所産在
 此乎凡古海と和華と二國の 仰海と為る由格別通商仰免
 其ノ下多之とも其他之是西船一切を仰止 仰出たりとも事其如
 格別之仁恵を五年中仰止と各諸書に 仰出たりとも事其如
 忠義美人尤難得たり格別之恩も 仰出たりとも事其如
 淑賢仁利之難得なり及所仰たりとも令く會飲光雅之 吳狄徂
 恩之礼之收之仰たりとも格別之恩も 仰出たりとも事其如
 才一 仰出たりとも事其如 仰出たりとも事其如 仰出たりとも事其如
 格別之仁恵を五年中仰止と各諸書に 仰出たりとも事其如
 忠義美人尤難得たり格別之恩も 仰出たりとも事其如
 淑賢仁利之難得なり及所仰たりとも令く會飲光雅之 吳狄徂
 恩之礼之收之仰たりとも格別之恩も 仰出たりとも事其如
 才一 仰出たりとも事其如 仰出たりとも事其如 仰出たりとも事其如
 格別之仁恵を五年中仰止と各諸書に 仰出たりとも事其如
 忠義美人尤難得たり格別之恩も 仰出たりとも事其如
 淑賢仁利之難得なり及所仰たりとも令く會飲光雅之 吳狄徂
 恩之礼之收之仰たりとも格別之恩も 仰出たりとも事其如
 才一 仰出たりとも事其如 仰出たりとも事其如 仰出たりとも事其如
 格別之仁恵を五年中仰止と各諸書に 仰出たりとも事其如
 忠義美人尤難得たり格別之恩も 仰出たりとも事其如
 淑賢仁利之難得なり及所仰たりとも令く會飲光雅之 吳狄徂
 恩之礼之收之仰たりとも格別之恩も 仰出たりとも事其如
 才一 仰出たりとも事其如 仰出たりとも事其如 仰出たりとも事其如
 格別之仁恵を五年中仰止と各諸書に 仰出たりとも事其如
 忠義美人尤難得たり格別之恩も 仰出たりとも事其如
 淑賢仁利之難得なり及所仰たりとも令く會飲光雅之 吳狄徂
 恩之礼之收之仰たりとも格別之恩も 仰出たりとも事其如
 才一 仰出たりとも事其如 仰出たりとも事其如 仰出たりとも事其如

昔年二波多劫法存者、一多勢集兵、二諸國、三集、四勢、
所謂烏合衆集、五結、六句、七左、八滿、九抄、十身、十一多、十二法、十三方、十四一、十五類、十六多、十七將、十八示、
邪、十九雄、二十一、二十一者、二十二危、二十三急、二十四一、二十五敵、二十六一、二十七若、二十八存、二十九一、三十地、三十一心、三十二一、三十三企、三十四一、三十五難、三十六中、三十七一、三十八一、
又、三十九一、四十一、四十一一、四十二一、四十三一、四十四一、四十五一、四十六一、四十七一、四十八一、四十九一、五十一、

一 魏、一少、二兵、三抄、四品、五一、六一、七一、八一、九一、十一、十一一、十二一、十三一、十四一、十五一、十六一、十七一、十八一、十九一、二十一、二十一一、二十二一、二十三一、二十四一、二十五一、二十六一、二十七一、二十八一、二十九一、三十一、三十一一、三十二一、三十三一、三十四一、三十五一、三十六一、三十七一、三十八一、三十九一、四十一、四十一一、四十二一、四十三一、四十四一、四十五一、四十六一、四十七一、四十八一、四十九一、五十一、

皇國、一四、二方、三沿、四海、五一、六一、七一、八一、九一、十一、十一一、十二一、十三一、十四一、十五一、十六一、十七一、十八一、十九一、二十一、二十一一、二十二一、二十三一、二十四一、二十五一、二十六一、二十七一、二十八一、二十九一、三十一、三十一一、三十二一、三十三一、三十四一、三十五一、三十六一、三十七一、三十八一、三十九一、四十一、四十一一、四十二一、四十三一、四十四一、四十五一、四十六一、四十七一、四十八一、四十九一、五十一、

天平宝字二年、唐の安福山、跋、一一、二一、三一、四一、五一、六一、七一、八一、九一、十一、十一一、十二一、十三一、十四一、十五一、十六一、十七一、十八一、十九一、二十一、二十一一、二十二一、二十三一、二十四一、二十五一、二十六一、二十七一、二十八一、二十九一、三十一、三十一一、三十二一、三十三一、三十四一、三十五一、三十六一、三十七一、三十八一、三十九一、四十一、四十一一、四十二一、四十三一、四十四一、四十五一、四十六一、四十七一、四十八一、四十九一、五十一、

有、一一、二一、三一、四一、五一、六一、七一、八一、九一、十一、十一一、十二一、十三一、十四一、十五一、十六一、十七一、十八一、十九一、二十一、二十一一、二十二一、二十三一、二十四一、二十五一、二十六一、二十七一、二十八一、二十九一、三十一、三十一一、三十二一、三十三一、三十四一、三十五一、三十六一、三十七一、三十八一、三十九一、四十一、四十一一、四十二一、四十三一、四十四一、四十五一、四十六一、四十七一、四十八一、四十九一、五十一、

攻其所不守也、守而必固者、守其所不攻也、一一、二一、三一、四一、五一、六一、七一、八一、九一、十一、十一一、十二一、十三一、十四一、十五一、十六一、十七一、十八一、十九一、二十一、二十一一、二十二一、二十三一、二十四一、二十五一、二十六一、二十七一、二十八一、二十九一、三十一、三十一一、三十二一、三十三一、三十四一、三十五一、三十六一、三十七一、三十八一、三十九一、四十一、四十一一、四十二一、四十三一、四十四一、四十五一、四十六一、四十七一、四十八一、四十九一、五十一、

一 夫、一一、二一、三一、四一、五一、六一、七一、八一、九一、十一、十一一、十二一、十三一、十四一、十五一、十六一、十七一、十八一、十九一、二十一、二十一一、二十二一、二十三一、二十四一、二十五一、二十六一、二十七一、二十八一、二十九一、三十一、三十一一、三十二一、三十三一、三十四一、三十五一、三十六一、三十七一、三十八一、三十九一、四十一、四十一一、四十二一、四十三一、四十四一、四十五一、四十六一、四十七一、四十八一、四十九一、五十一、

此併世界を颯廻るる事は、本性を猿の末上と曰ふる海の河に
限らざる所不此下りる言て是より南より南極度之國を見
迄通路を設け所多く有快航といふ地方に颯廻るる所多
新奇の事も自ら交易の道も特別盛んなり。日本、彈丸黒
瘡の小洲を東東に綿糸も亦より外、替りてその無慮に利害を
争ひ争ひ他を排し方て此より其上

御先世も漢土和華の外教と南通商の後、御免四度いたし由業
知仕に流末夕通信の多し、輕解琉球の外氣と業知を伝へ、
御孫孫の身より、祖家への遺訓を以ておとす、孝道、大布是程
之天理、無事此子に死なば何事也、皇國魂の何人限らば、
神君の教と書し、外に他より四邊に節目と以て道なきお事、往由故

此の世に於ては、御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
爰に應兵の篇と有る所、御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
日本海岸隔り、諸嶋、防禦無

覺來、以て御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
此の世に於ては、御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
夜に於ては、諸島に、防禦も亦、御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
下りて、御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
是より防禦仕、隨ひて、外に他より、攻伐の程、勇氣御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
決り、防戦成る、御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、

御親征は、此の御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
起り、勇氣一涯盛り、御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
心然、自今より、御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、
御先世の御遺訓を以て、我々の身も亦、皇國魂の何人限らば、

[Faint, mostly illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

此後小亞非利加合元國之使船渡海之泊桕

一 小亞非利加大事之容易也物也 思之其有也其難也 越意以之通

一 難免於此也其難也其難也 觸之其有也其難也 越意以之通

一 下上之有也其難也 和祥也其難也 仰其難也其難也 和後

一 小身家之難也其難也 其難也其難也 其難也其難也 其難也其難也

一 辭讓也其難也其難也 又退也其難也其難也 國多也其難也其難也

一 大也名之所也其難也其難也 其難也其難也 其難也其難也 其難也其難也

一 謀也其難也其難也 其難也其難也 其難也其難也 其難也其難也

一 荒也其難也其難也 其難也其難也 其難也其難也 其難也其難也

一 彼也其難也其難也 其難也其難也 其難也其難也 其難也其難也

一 其難也其難也其難也 其難也其難也 其難也其難也 其難也其難也

中成程起て証あるは一旦現を聞きたるは

皇に禍基を張るは極く其の甚く交易の以りて争はるる

一 彼國元來政羅巴諸王と國を此西洋紀年を以て位が人物大才其

種類之奸黠を性候之方且其國以東未夕年數無し人其も

多く出政教おも能定て其事と云ふは他國と交際も其も

謀し戦闘等極くお好し其教傳つ所は其後振り出れ侮慢

とあり向ふて始終我を名有し彼名ありしめむとや

御目と云ふは其肝要と存る

一 彼國強大繁華を自負し我國と和親交易せば兩國の利益多かる

人事を以て我を偏安候れと守るる古紀存律よりて凡天下

大小の地界を侵つの人主として各其國の民庶と安んじ其の志

難く罹らしめざる人等の利益を傳うたして天理の布徳に安ん

則天意に肖さざる人あり新視し交易の以りて其趣意を

一 彼國の近年三艘の難船に極方恐怖の趣意を近年記爲る最

洞何年の節何れは物何れし御某と輕意に都々他邦を仇

視出る所を無しとて其毒細に口を言て有るは其後彼等と

此等し種者も其費は又支那如きと外を外交を禁せらるる外

航渡も其節も其費も多し其後其古來より沿海の地方も命に

多し其邊境に於ては風波難逢漚流せし船とも我國親と破り

強し其後其の船も同様に見る者も其後其難く過り河も入るは延礙

之上去年保年中外邦より漂着船も所無し其意に依るは其意

切命をとりしめし事あり彼も其船も其意に依るは其意

漂着せし船も其意に依るは其意に依るは其意に依るは其意に依るは

又漂流難破し災にありて七彼國制を越ひ東中夜と飛航海
此の別致を風儀あり意外時日を重なる時船上之を補ふは為
我國沿海に侵路に於て新水と云ふ船を以て我國規を背して地方
の官署に達し船を誘ふ等して三日を経るに河を以てし我
ふ良の奸民を欺り私貨を交易するの國林を侵さる且糧上陸
乱妨する所の不致ありさるに河を渡海し旋泊する許さるに
やまの注意を以てし海方より復た

一 我國石炭と存する甚き河を以てし地を以てし新炭を不
足を補ひ民人の炊爨或は煮塩の用と年々近き外邦に賣興
此の程に多き河を以てし且倉科と事る自國平為る用款あり
されども又天災地狭し久きと進時我の窮民飢饉を救ふ由あり
もされども又外船送るの難ありて只我國用を備む
事と患ふのみ又和業多那回東交ありて物件と事しハ業ありハ

我國に於て不可無き物のみにして今も是を以て船事と其
數を減ずるに保つて河を以てし是我西に外貨と交易を欲せざるの證あり
と一に注意をも巨細に論ありてなむ

一 彼國君主平和温順し志意志交親を新欲する条ハ世界中人心
何れも是を好むる我國に於ても政堂所希ありて河を以
されども大洋數千里風海に難を誘き人民に忠忠を以て各國
主の情態を憐れんとするハ皇天の意を叶ふといふは君原
是と察し久又善向らしし所の水師提督の如きハ素より兵隊の臣
南の故や和軍危多と主張し動もこれハあると年場の場も世
人よき事ハ其務の所の書中演られたれども是我國の敢て欲
する所ありてこれと捉結英名を以てし漫に侵犯し暴を誘は

又とて我國のことも又不慮に備ふべきは防備の所
と起さるやと申す執意を能く論有し成るべき

一 如て下軍を獲ては國術有し上若く兵糧を以て紀年を以て我國を
於ては誠有名已事と爲す所の師を以て任令得る兵船を
改むる御周章狼狽河を余よは唯靜に將任を擇てのい
防備するは彼船は高大堅固河に絶れも定る西洋人に甲乙無
し艦隊は兵船より其本船を向遠く海面に打撃し易く容易
に打撃す我の力に我大砲を用ふに費し所は無く兵船を甲令
に加ふるに我の所長と彼の所長と製を捨つるの謀を以て軍機
を防備し制と守るは其將畧を以てのいしは豫に備はる

一 石部都の敵國は法應接問の事機を以て問ふは執意を以て有しは成る
法に於ては海意はあり大小各に國勢兵力を量收計せられ軍を弱
くするも強くして制し難きものありしは上の場合に改の權あり

は制し軍事とあるは 沖治世後一旦御見知ありは其方より大小の
國を能く伏しは制易く是も昇平の久しき上下不知の事と
なく華奢を走各國用兵を以て逼迫して私弊を小察する昇平に
程漸安の令より公務を滿中し教育欲用し控郵も亦も注意
十全に以て存存動も成る 公儀の仰奉り又富商を以て備へ
終臨時の費用を存するのむらも衰弱如斯き至る大諸侯は是
日よりその事を以て又も警備して在るは成りしは海内は目前
制易く成るは敵國外寇の防備を以て至るは亦一難く其亦一
難きとの極るは其制し易きとの却る制し難きと至るは又計り
へらるは漢也外寇はこれの地を其船を以て難知成り是を以て西

東、南、西、北、東、西、四方、所、航、來、一、能、得、多、得、兵、略、を
 廻、ら、せ、る、も、有、る、れ、若、船、を、所、の、國、色、の、主、を、隔、格、別、に、隣、近
 打、交、致、扶、助、怪、也、一、待、更、甚、地、形、に、隨、ひ、防、禦、の、術、を、定、ま、り、自、
 ち、ら、し、む、の、制、を、立、た、へ、し、一、諸、侯、奔、命、に、應、れ、り、故、に、各、國
 益、牧、用、を、摩、弊、一、海、内、難、を、折、る、北、を、之、阮、往、の、事、に、益、あり、
 一、臣、敵、國、外、患、の、誠、也、を、存、名、後、の、所、益、に、一、順、主、の、良、佐、忠、を、愛、
 せ、留、め、む、人、事、と、希、と、一、む、所、は、其、也、

一 諸侯治世、奢侈、を、走、り、國、用、を、定、ま、る、を、志、し、は、自、分、一、家、の、制、度、を、
 立、立、重、の、節、儉、を、好、む、前、件、の、智、衰、弱、を、至、り、に、自、立、も、つ、り、
 一、義、禮、も、亦、く、世、上、荏、苒、し、勢、を、衰、れ、弱、し、中、に、一、等、し、節、儉、
 難、お、後、多、し、其、後、を、考、る、に、世、を、治、ま、る、世、界、の、形、勢、に、隨、て、曰、
 律、も、政、律、一、の、公、道、一、の、自、私、一、の、強、弱、一、の、成、敗、一、の、存、亡、一、の、意、
 一、を、之、れ、を、き、き、に、傳、へ、ん、

一 一、系、球、中、に、於、て、大、都、會、を、繁、華、と、自、有、る、國、も、多、く、有、り、一、級、一、等、と、
 一、他、西、洋、諸、國、も、一、風、俗、を、用、ひ、交、易、國、に、た、り、若、く、は、一、我、由、如、自、分、
 一、を、海、内、と、確、り、せ、る、風、俗、を、好、む、一、守、存、有、り、お、も、毎、世、
 一、法、も、其、の、兵、也、一、江、戸、の、府、内、に、遊、民、高、買、治、り、に、材、に、一、農、作、一、本、
 一、業、後、に、有、り、一、夜、旦、所、今、亦、一、中、外、諸、國、人、諸、高、買、を、始、め、富、有、り、
 一、高、家、も、亦、有、り、一、五、五、個、驕、奢、を、長、し、一、中、外、廢、人、一、身、柄、を、自、任、
 一、節、儉、無、し、一、一、府、内、風、俗、を、立、止、め、中、古、教、也、一、又、諸、國、華、素、高、
 一、利、一、系、一、諸、元、方、を、仕、出、す、一、在、廢、令、を、下、し、一、の、一、華、美、情、弱、の、風、
 一、習、多、く、一、俳、優、遊、思、一、事、起、首、一、其、元、を、防、り、在、者、其、法、
 一、何、事、も、名、目、を、一、三、日、法、令、一、無、一、在、重、心、一、修、業、一、行、れ、上、再、三、再、三、

此は國者、後少微也。

一 官路、後しく、私機と公平折中、自ら、善我、復、力と強、
し、の、改、革、事、件、多、く、の、身、體、言、兵、隊、之、開、の、所、
要、多、く、此、節、の、外、寇、一、条、の、拘、平、た、も、打、入、忠、言、を、募、求、し、
心、情、を、察、知、し、の、み、
君、お、し、の、息、會、と、の、滋、事、と、を、存、心、に、
石、別、版、上、と、通、蜀、先、傳、の、の、の、意、は、丹、那、部、兵、と、書、敵、許、
に、誠、と、表、し、て、は、文、義、抑、忽、と、の、若、也、し、の、の、の、意、最、全、に、
以、信、を、依、希、し、恐、懼、敬、白、

嘉永六癸丑年八月十日

久留嶋 靱負 通胤

浦安表、渡、来、し、亞、米、理、駕、船、の、差、出、の、書、指、し、和、解、洋、
見、に、仰、身、名、得、と、懸、望、し、上、存、心、の、京、の、口、在、り、十、多、く、
中、上、分、に、仰、後、甘、畏、の、畢、竟、

本朝沃饒、羨彼國、利徳便宜、とお望、
御國益、と、立、交、易、の、お、お、の、取、り、致、と、好、く、趣、意、不、
被、察、し、也、然、

御、返、答、の、御、種、様、の、お、お、の、軍、艦、半、損、の、對、候、に、乃、可、し、我、
を、願、ひ、の、御、給、し、御、武、備、を、心、事、奉、り、御、取、り、の、御、
下、の、お、お、の、御、交、易、の、且、交、易、の、御、利、害、の、御、私、大、更、の、
不、お、お、の、御、免、角、御、國、家、の、御、都、合、の、御、可、否、在、納、
御、休、給、御、仁、惠、の、御、御、清、辰、の、御、若、く、御、兼、休、成、
左、也、の、御、若、く、御、戰、闘、の、御、煩、勞、の、御、免、除、上、下、昇、平、の、御、唱、無、

中上右衛門尉 中上右衛門尉 中上右衛門尉 中上右衛門尉 中上右衛門尉

七月廿五日 本下後中守

浦賀港に渡舟の亞墨利加船より差出の書翰和解写
お見之 仰付を上原家 活沙活雅有甘思の
一書翰に執得る洋見仕を為し而一大事と仰り之趣方より
一仰國長之と云ふに存候を以て申上り
一か邊のふり舞礼致しつゝおん心ふり申上り
おまをその習われを初るに申上り
中上右衛門尉 中上右衛門尉 中上右衛門尉 中上右衛門尉 中上右衛門尉

浦賀港に渡舟の亞墨利加船より差出の書翰和解写
お見之 仰付を上原家 活沙活雅有甘思の
一書翰に執得る洋見仕を為し而一大事と仰り之趣方より
一仰國長之と云ふに存候を以て申上り
一か邊のふり舞礼致しつゝおん心ふり申上り
おまをその習われを初るに申上り
中上右衛門尉 中上右衛門尉 中上右衛門尉 中上右衛門尉 中上右衛門尉

いさく計し可有の程と甘ね

一 交易年間とさうりあひの事

沖國地久補給構あつた平の沖代わて歳貢に忠義致
法くしん心腹あひの地を實地をふし中へれは實
地ふま終をく只今いふ
思ふもも行商へちあな事しれり子仕出—却ら後
此を取らくは重きもの

一 沖國地と甘ねる事

沖國の先づ我あつた—夜に中候を其を始御大に開平

一 沖國の先づ我あつた

うけらその志のきうい書物寄いし所持仕居る百
ち忍なる上をたおし俄毒受人物い小書請組杉平美傳
支配指麟右席う—仁に其れんてあふは守りは仕居る

一 沖國地い—炭多し事

南付島に皆或は得たあはれりや沖國地いとも軍船
い取まはれは蒸氣船あそもつり出出れあはれりや甘ね

一 沖國地い—炭多し事

其御石炭海山の事りゆは京都令に交なれ海外乃諸
國南付島に或は得たあはれりや沖國地いとも軍船

一 沖國地い—炭多し事

有—んとも一統心へ希居るゆは折の心通も無事也仕居る
極なる事候客易の事通さこははとも新へりちあはれ

一 沖國地い—炭多し事

呉—と炭守の事候仕居る

右三ヶ条之通都
伊國沙長久の基と忍收をなす

作忍程又思存奉り上

一 武装最上南時銘槍ふまより中々若國力成用ひり夜ふ
開市より若城難中上各只 伊國地の流名おま不毎
く品もそ信ふ用ひ存より陣歌あ甘存火繩打の小筒あをば
南中亦大風の節中り用立や一時少く味方より
打中寄より口葉飛散中々実用は成意却り何ふあく忠告
をより西洋流と唱新制と利を仕るは何れ物好のや少
か一程少の信お不中亦銘槍は外國より渡りたるあり
道不國名も事お對國より入るは亦不亦出外に極利なるは
得をば進み使ひいしく勢古信より御不苦次方と申すお
成る流儀立お止將年の利を不仕度物と申す

- 一 火薬と火薬ふつていよ聖なる忍大筒を挺身合茶子燬目
無しとせば亦子燬ふなる前より上は聖なるをより大筒七
十挺と定合茶七菊燬目よりなるも天然と燬存のよ
て丸氣り不中人造り法長 作出諸玉一急不制能仕存
仕度い此年於仕丸少く斗打よりい亦葉おと無忍と大
お邊仕るも精製の亦仕度ものも長
一 兵糧と民大なるは浦賀渡通船不仕るも廻来出舟存
中工吏無事なるは 伊藤元忽國筋及び一も忍も大節の
場合の事なる
一 馬と民南時の系形をば磨するも実用無事なる存

近頃貴詞の如く古傳の言方より其を以て然る事ありてお成ハ
一統右意形も仕度との心なり

一 具足の後高野の盛と申すは建也むるは是れ昨年
一 革制光熱種は仕とららば夫張若用不仕方存利は是れ
若く一とらるる若用不仕自由の制は仕度なり

右五箇條不入事ありて存せりと思ふ

一 昔稱く内南方の地をてお借仕度との言も其の如くしき
かありて知有とらるる言も其の如くしき
言上仕度なり一併私儀無学文盲も上帯也兼中は仕度
言上仕度力も其の如くは是れは後傳の言も其の如くしき
上仕度偏御賢者なり希に忠惶謹言

月日

内藤金之丞

正義

今度要暴利加合元國より軍艦渡来仕和親交易あり頼書美也
程又東春の軍艦も差向の上不敬至極は是れも有る且舟中も種
々御國法に背き仕儀も有る事は是れも有る容易に御所廣建
議と求まれば古聖帝明王の所行は是れも有る實に難有
思召に及ばず身弱く身介に頼り献言仕度との言も其の如く
は是れ家元は是れ仕度なり是れ也

一 此後書翰と形勢と交易和親并石炭買入繫泊の場所も其
根本に皆一の心算なり御免は是れ也決り無し仕度万平
徳は是れ極なり是れ也御免は是れ也太平の世は情徳も度
人との御武家も是れ也是れ也御免は是れ也交易

御免は是れ也御免は是れ也御免は是れ也御免は是れ也

促合針灸を施すに彼が歎かざる所を説く其好む也其劣る物と多く
 豊の経緯大病を度し一治も到らずんば悪む所と不顾針灸を
 施すに彼も眼病を痛きは治り後多し無病息災とおぬ言ふ只
 今諸人の意向を随交易 抑先は御身体に善由多し可なり
 徳無くは後多し此を脱は追て諸害より救也其有る一方徳を
 お減る一方争を起生し下下且狡猾を重んじ其意を以て三年の
 所を定る多し其意をおぬに信人心を操り治り治る年を経り
 従い追て我侯権柄の所を欲し可制り下下其節におぬ以て其言
 多し難おぬ一戦志武威を示し後從受難業候と有る人情を以
 為度らざるに候は

祖宗の御遺志と有る徳速に下下切に可操り此お年一危に似る
 却ら安全の基と有る南の武候事と有る心中 神國勇武

上言御誠実の武候とお張に於ては諸侯大吏の向御所人百姓至
 近も奮記伝の歎慨し心を生し誰有る言語不通し夷狄の交と
 結ぶ事と好まらずに南の武家困窮を救ひ其意を急速に武候程に
 惣福ありと有るに武風盛んおぬ治り後武候し之を惣と外に任
 以放衣合位を著る自紀とお止武候の治りお整言しを必起し惣
 以言何卒迄の事よく交易の難かり徳乞に之を打拂におぬ言
 以御彼に人心一決伝る武候を速にお用下事お紹候し之を任合
 其年十年迄に有る今目とし其別武候の御儀を其意を其
 其存に何事候おぬ其意を其存に及我閣に報馬と申し之を其
 以の事し其意の所傳に其民を其民に任し生れ其民を報と申し其
 敬る 上と惡しと申し其意を其存に一報に其意の如

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

此度亞墨利加船、差上公書翰和解、以成以波一同存身
之亦也者、以公心慮之、不殊、上公信也、
右願者、趣之、
作波僅、最知仕信

御國法、通、御聞届、無、後被、
作、請、勿、端、之、所、願、也

甘存、仍、海、岸、後、向、你、所、最、重、之、事、也、
出、所、之、趣、

通、依、不、仕、及、不、法、以、節、也、
出、也、然、也、存、也

若、苟、安、之、
御、為、不、宜、也、
涉、所、是、成、也、

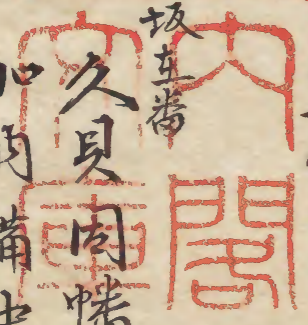
甘存、公、於、此、上、心、附、公、後、八、名、高、申、上、公、信、也、仕、甘、存、公、信、也、

此、候、中、上、公、心、上



七月

大坂在番

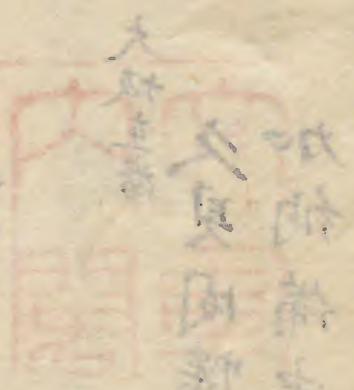


久貝内膳守
加納備中守
正典
久徵



Handwritten characters below the top seal.

Handwritten characters in the upper left section.



Handwritten characters above the middle seal.

Handwritten characters below the middle seal.

Main body of handwritten text in vertical columns, including characters like '加' and '之'.

